

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会

通所介護

勝原デイ・サービスセンター

令和4年度 事業計画

目 標	日常生活を意識し、健康増進につながる運動や訓練を行い、住み慣れた自宅での生活の継続を図る。
理 由	<p>新型コロナウイルスが猛威を振るっている中、感染症予防対策を徹底することで、安心した利用を図りたいため。</p> <p>利用者個々に合った機能訓練に取り組むことで、日常生活動作機能の向上にとどまらず、意欲の向上を図り、住み慣れた自宅で尊厳ある生活につなげたいため。</p> <p>機能訓練の内容について、担当職員間でPDCAサイクルのもと、協議、検討し、取り組むことで、各職員のスキルアップ、事業所としてのボトムアップにつなげたいため。</p>
具体的対応策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3密を避けるなど感染症予防対策を十分に講じつつ、実施する。 2. 二酸化炭素濃度測定器により部屋の測定を行い、フロア換気や手指消毒などを徹底した感染症予防対策を講じる。 3. 家庭生活を意識し、担当者会議や担当職員間で意見交換しつつ、現存機能が活かせる活動や運動、機能訓練を企画し、実施する。 4. 実施内容を評価し、個々の状態に応じた活動をすすめる。

令和4年度 事業報告

事業報告	<p>継続的に個別に合わせた塗り絵や漢字、計算問題などの脳トレーニングを行い、脳の活性化と現存能力の活用につなげた。あわせて、四季を感じられるように季節に合った作品作りや散策公園での散策を通じて、気分転換と下肢筋力の強化を図ることができ利用者からも好評を得ている。</p> <p>また、法人内の他事業所の生活相談員と連携を図り、機能訓練の内容やレクリエーション活動に関する情報交換を行い、得た情報や助言を参考にしつつ、新たな機能訓練の内容やレクリエーション活動を考案した。</p> <p>ただ、居宅介護支援事業所への訪問が不十分であったため、今後、連携がスムーズに取れるように適宜訪問し、利用者に関する情報共有や情報交換を行っていききたい。</p>
事業運営総括	<p>令和4年度の稼働率は63.0%と令和3年度に比べ、マイナス7.9%落ち込み、近年、右肩下がりの状況に陥っている。</p> <p>主たる要因としては、年度当初に新型コロナウイルスの感染発生に伴う休業に加え、要介護度の高い利用者が多いことから体調を崩してのキャンセル、施設入居や短期入所生活介護の利用があげられる。また、各居宅介護支援事業所への訪問など営業活動が十分にできていないこともあげられる。</p> <p>令和5年度は利用者個々に合わせた活動や機能訓練を行い、利用することが楽しみになるように取り組んでいきたい。</p> <p>また、各居宅介護支援事業所を訪問し、当事業所の取り組みや利用者時の様子、空き状況などの情報を発信し、稼働率の上昇につなげていきたい。</p>

要介護度の状況 《平均要介護度 介護 2.17 》

令和5年3月31日 現在

	人数	割合
事業	0	0%
要支援1	2	5%
要支援2	5	13%
要介護1	8	20%
要介護2	12	30%
要介護3	4	10%
要介護4	5	13%
要介護5	4	10%
合計	40	100%

(四捨五入による%の誤差あり)

月間利用実績 (人数)

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	4	4	3	5	4	4	5	3	4	4	3	2	45
要支援2	5	3	5	5	5	5	3	3	3	3	6	5	51
要介護1	15	14	12	11	11	10	12	10	12	7	7	8	129
要介護2	12	11	13	14	16	15	15	15	15	14	14	12	166
要介護3	5	3	3	3	3	4	4	5	5	6	4	4	49
要介護4	3	5	5	5	5	4	4	4	5	4	5	5	54
要介護5	2	2	2	4	3	3	4	3	3	4	4	4	38
合計	46	42	43	47	47	45	47	43	47	42	43	40	532

月間利用実績 (延べ人数)

《稼働率 63.03%》

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	8	12	7	15	17	13	17	9	15	15	5	6	139
要支援2	22	19	35	37	36	34	25	24	23	19	29	30	333
要介護1	84	98	135	128	119	115	127	117	104	69	80	100	1,276
要介護2	96	93	131	146	160	145	162	162	147	141	142	149	1,674
要介護3	39	31	37	35	38	41	44	62	58	55	48	57	545
要介護4	14	27	43	44	33	32	31	30	38	30	24	39	385
要介護5	15	17	18	25	20	24	17	23	20	25	32	29	265
合計	278	297	406	430	423	404	423	427	405	354	360	410	4,617

開所日数

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	18	20	26	26	27	25	26	26	25	23	24	27	293

曜日別延べ利用実績

令和4年度

	月	火	水	木	金	土	合計
人数	951	667	789	730	745	735	4,617
割合	21%	14%	17%	16%	16%	16%	100%

1週当り平均利用人員

令和4年度

	月	火	水	木	金	土	合計	1日平均
人数	19.4	13.6	16	14.8	15.2	15.2	94	15.70
割合	21%	14%	17%	16%	16%	16%	100%	—

回数別利用人員

令和5年3月31日現在

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合計
人数	10	10	14	4	2	0	40
割合	25%	25%	35%	10%	5%	0%	100%

保険者の状況

令和5年3月31日現在

保険者	人数
姫路市	38
太子町	2
合計	40

年齢別構成状況

令和5年3月31日現在

	65歳以下	65歳以上 から 70歳未満	70歳以上 から 75歳未満	75歳以上 から 80歳未満	80歳以上 から 85歳未満	85歳以上 から 90歳未満	90歳以上	合計
男	1	2	4	4	7	5	1	24
女	0	0	1	2	6	4	3	16
全体	1	2	5	6	13	9	4	40

日常生活状況

令和5年3月31日 現在

区 分		実数	割合
歩 行	自 力 歩 行	9	22.5%
	杖等の歩行補助器使用	16	40.0%
	車いす使用	15	37.5%
食 事	自 分 で 可 能	33	82.5%
	一 部 介 助	4	10.0%
	全 介 助	3	7.5%
入 浴	自 分 で 可 能	5	12.5%
	一 部 介 助	32	80.0%
	全 介 助	3	7.5%
着 替	自 分 で 可 能	6	15.0%
	一 部 介 助	29	72.5%
	全 介 助	5	12.5%

区 分		実数	割合	
排 泄	トイレ	自分で可能	13	32.5%
		介 助	27	67.5%
	内おむつ使用	3	7.5%	
認 知 症 高 齢 者		33	82.5%	

対 象 人 数	40
---------	----

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4月	ドライブ：桜花観賞 (太子町)	漢字トレーニング パズル・塗り絵	点取りゲーム 連想ゲーム 旗上げ体操
5月	散策公園散歩 カーネーション作り (母の日)	漢字トレーニング パズル・塗り絵	言葉集めゲーム 点取りゲーム
6月	ドライブ：紫陽花観賞 (世界の梅公園)	間違いさがし パズル・ちぎり絵	玉入れ合戦 競馬ゲーム うちわ体操
7月	七夕会	漢字トレーニング パズル・ちぎり絵	連想ゲーム 物送りゲーム ボール送りゲーム
8月	夏祭り	漢字トレーニング パズル・塗り絵	点取りゲーム ボールリング入れゲーム 指折り体操
9月	散策公園散歩	漢字トレーニング パズル・ちぎり絵	紅白旗上げゲーム 点取りゲーム
10月	ドライブ：コスモス観賞 (たつの市揖保川町)	計算問題 パズル・塗り絵	言葉集めゲーム 指折り体操
11月	作品作り (クリスマス会の飾り)	漢字トレーニング ちぎり絵	点取りゲーム ブロック積みゲーム グーパー体操
12月	クリスマス会	計算問題 ちぎり絵	点取りゲーム お手玉台乗せゲーム 旗上げ体操
1月	初詣 (魚吹八幡神社)	計算問題 塗り絵	しりとり 連想ゲーム グーパー体操
2月	豆まき	間違いさがし ちぎり絵	点取りゲーム ブロック積みゲーム 旗上げ体操
3月	散策公園散歩	塗り絵 パズル	点取りゲーム グーパー体操

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
定期的	お誕生会	ちぎり絵・脳トレーニング 囲碁・将棋・オセロ	リハビリ体操

苦情対応
苦情なし

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
令和4年 6月13日	「杖の置き忘れについて」 ドライブから帰園後、利用者の杖がなかったため、参拝した神社に連絡したところ、置き忘れていたため、神社まで引き取りに戻り、利用者宅に届ける。	①施設や現地からの出発前に荷物の確認をしっかりと行う。
令和5年 1月16日	「単独外出について」 昼食準備中、利用者が独りで外出し、道路を歩いていたところ、出勤途中の職員が気づき、連絡を受ける。利用者本人がいなことが分かり、見かけたあたりに行くと本人と出会い、一緒に事業所に戻る。	①見守りが手薄になる時には、必ず他職員に申し送りを行う。 ②利用者の顔、服装が分かるように写真を取り、利用時には事務所内で掲示する。 ③職員間で利用時の状態など情報を共有し、状態に応じて、寄り添うなどマンツーマンで対応する。 ④利用者の所在不明に気づいた時は、すぐに事務所へ報告し、施設長の指示のもと、複数人で近隣を搜索する。

※ 職員間の内部研修、外部研修、避難訓練については、併設の特別養護老人ホームと合同で行い、参加している。